

令和元年度 第1回徳島市中小企業振興対策委員会会議録

と き：令和元年9月30日（月）
 14時00分～16時00分
 ところ：徳島市役所 8階 庁議室

1	開会	－ 14時00分 －
2	第二副市長挨拶（代理 須藤理事）	
3	委員紹介	
3	委員長及び副委員長選出	
4	議事	
	(1) 平成30年度中小企業振興施策の実施状況について	
	斎藤委員長	本日の1点目の議事「平成30年度中小企業振興施策の実施状況」について、事務局から説明を求める。
	事務局	平成30年度中小企業振興施策の実施状況について説明
	斎藤委員長	ただいまの事務局の説明について、意見、質問はないか。
	杉原委員	<p>まず、17ページの商店街活性化支援事業について、商店街への支援をしていただいていることは非常にありがたいが、少し残念な点があつて、連合会に入っていないところばかりが助成金を受けていることである。連合会もそうだが、法人格を持ち、法人税を納めていて、特に市と県に二重払いをしているようなところには優先的に支援をすべきではないか。</p> <p>それから、商店街連合会は今、弱体化している。なぜかという、これまでは国、県、市の支援金などに申請する際は、連合会を窓口にして申し込むようなシステムになっていたが、近年では連合会を介さず、各自で手続きするようになってきており、連合会に参加する必要性がないのではないかと考えるような人が多くなっているためである。ところが、連合会は各商店街の振興を図っていかねばいけない立場であり、従来のように連合会を介して、支援金の申請等を行うようになれば弱体化を防げるのではないかと、思われる。そのため、市にはその辺りの対策を何か考えていただきたい。</p> <p>もう一点言わせていただきたいことがあり、本日は、明日から軽減税率適用が始まる大事な時期であり、既にキャッシュレス決済に関する質問や不安の問い合わせが多数来ており、混乱に陥っている状態である。さらに、明日からのプレミアム付商品券利用開始に関する準備もあり、本来であれば私自身対応に当たらなければいけないため、あえてこうした時期に委員会が開催され、招集されるということは、心苦しいことである。そのため、次回からは開催時期について、もう少し考えて欲しい。</p>
	事務局	<p>まず、今年度の本委員会開催時期に関して、消費税増税等の影響で多忙な中での開催となり、心及ばず申し訳ない。</p> <p>一点目の、商店街の連合会を活用してほしいとの意見、要望については、現在の徳島市の実施する事業としては、商店街の組合を経由して商工会議所と実施しているものであり、今後の活動の参考とし、検討課題としたい。</p>
	白井委員	<p>いろいろな取組みをされているのは分かったが、これで本当にこの街が10年後、20年後に良くなるのか、熱量が全然感じられない。なぜ感じられないかという、ビジョンがはっきりしていない、さらにいうとランドデザインとの整合性が見えないからである。そこで、事務局に質問だが、この徳島の街を10年後、20年後どうしたい</p>

	<p>のか、グランドデザインを見せていただきたい。また、それと現行施策の整合性と連動性を確保しながら、各事業に取り組まれているのかを説明していただきたい。</p>
事務局	<p>グランドデザインが見えないとのことだが、本市では徳島市まちづくり総合ビジョンを基に、「笑顔満ちる水都とくしま」を目標に、「つなぐ」まち・とくしま、「まもる」まち・とくしま、「おどる」まち・とくしま、に向けて取組みを進めているところである。</p>
臼井委員	<p>では、例えば「おどる」まち・とくしまを創るにしても、具体的に、今後どう中小企業対策に反映させていくのか。</p>
事務局	<p>「おどる」まち・とくしまに向けては、まちづくり総合ビジョンの下位計画として、徳島市産業振興ビジョンがあり、その中で本市産業の振興にあたって、将来像の実現のため、域外所得の増加を目指した産業の育成・創出、域内での経済循環の促進、活発な経済活動と安定的な経済基盤づくりの三つの戦略を掲げ、各事業に取り組んでいるところである。</p>
臼井委員	<p>具体的なところでもう一点だけ、17 ページの中心商店街等活性化支援事業に関するところで意見したい。今日もここに歩いてくるまでに街や商店街を見るとシャッターが閉まっている店がたくさんあったが、街の中心の店がシャッターを閉めているところだけでは、外から来た人もこの街は廃れていると感じてしまう。その状態への対策として「イベントをする」となっているが、本当にそれで 10 年後中心の商店街が良くなるとは思えない。なぜ、シャッターを閉じたままの状態なのか。おそらくそれは地権者の方が売るのが嫌がっている、あるいは貸すのを嫌がっている、といったことがあるのではないか。そこに、利害関係のない公的な立場の市の担当部署から声をかけたり、対策をしたりすることこそが、改善につながっていくのではないか。他の市町村をみると、そうした取組みで街を良くしている事例が現実にある。今のような中心商店街活性化支援事業では改善されないと思うため、もう少しその辺りを考えていただきたい。</p>
杉原委員	<p>今の意見について、商店街組合から少し話をさせていただきたい。</p> <p>四国大学や文理大学等の学生、あるいは一般市民の方を商店街に呼び込んで行う事業を来年から開始する予定になっている。そもそも、商店街がなぜ衰退したかということ、簡単な話で、商店街が危機感を持たず、時代の変化に伴う対策をしてこなかったからである。私が以前大阪で問屋をしていた際に行ったブランドバーゲンでは、大阪、神戸の人は買わず、徳島、香川の人がたくさん買っていき、成功した。このことから、当時の話ではあるが、高い高速代、駐車場代を払っても欲しいものがあれば、徳島から関西までみんな来るため、それに対抗してこなかったことが徳島衰退の一つの理由だと考える。空洞化した商店街に入りやすいのは飲食店であるが、そのための設備を整えることができない商店街もある。また、商店街の内では、月々の生活費が30万円かかるから30万円で場所を貸す、というような徳島の現状を見ていない考えを持った人が多くいる。さらに、貸すとなると、店舗部分を改装しなければいけないため、固定資産税を払い続けてでもそのまましておく方が楽だと考えている。そのため、誰も借りず、シャッターを下ろした状態のまま古びているのが、今の商店街の現状である。しかし、行政側が個人の資産に口出しをするのは難しいと思うので、まちづくりに関してもっと力を入れてもらいたい。これまで東京と徳島にだけ、まちづくり会社がなかったが、東京にもでき、最近になってようやく鴨島でまちづくり会社を創るとの話ができた。しかし、街の中心にまちづくり会社がなければ、まちづくりは進ま</p>

	ず、街の活性化もできないのではないかと以前から思っていた。以上である。
事務局	白井委員の中心商店街等活性化支援事業に関する意見に対して、杉原委員から説明いただいたように、個人の資産に影響を与える難しさという面もある。さらに、少子高齢化や人口減少の影響もあり、非常に難しい問題点である。杉原委員から挙げていただいた具体例で、学生や一般市民に、起業体験を行う場として利用してもらうことで商店街の活性化を図っていく等の話もあったが、現在いろいろな方法を検討しているところであり、今後も意見をいただきながら、商店街活性化に向けて進めていきたい。
斎藤委員長	これからどういう街にしていきたいのか、もっと真剣に考えて先を見据えたビジョンを持って計画していくことが必要であると思われるため、頑張ってください。
白井委員	創業の促進として起業家育成資金貸付金という仕組みがあるが、起業家は貸付金よりもエクイティを求めているのではないかと。創業するに当たっては、立ち上げ段階の資金繰りが苦しいため、これを乗り越えてもらうために相当な長期間の貸付金、もしくは出資という形で創業者のリスク軽減を図っていくことも一つの方法だと思うのだが、そうした支援はできないのか。
杉原委員	今の意見の一つ例を挙げさせていただくと、商店街で来年度から行う学生たちを呼び込む空き店舗対策の事業ではクラウドファンディングを行うことになっている。流行りものではあるかもしれないが、そうした形でのエクイティを臨むこともできると考えている。
事務局	行政のお金の使い道として繊細な部分ではあるが、創業の補助金というところでは、個人の資産とならないような形での補助を行っている。長期貸付金については、日本政策金融公庫や信用保証協会とも連携して、より良い形での貸付金利用に導いていきたいと考えている。今後、新たな枠組みができれば、より積極的に考えていきたい。
斎藤委員長	行政からのエクイティは難しいところがあるかもしれないが、外郭団体からのエクイティやクラウドファンディングの利用という方法もあると思われるため、そうした部分でのアドバイスなども考えていただきたい。
黒下委員	融資制度に関して、事業者への負担軽減は、市も事業として行ってきたと思われる。かつて、時代の中でベンチャーが求められていたときには、県としても新たな企業に対してベンチャー投資を行ってきたところであるが、モラルハザードの問題や税金を使うということから、確実性を担保していく必要がある。そのような背景から、現在の融資制度の形になっていると思われる。 ただ、福岡市で、商店街の中に事業者を呼び込み、情報環境を整備した上で商店街を再生する、といった事例もあるため、新しい施策を盛り込んでいくことも大切なところであり、まちづくりのビジョンに沿って推進していく必要がある。
美馬委員	ここまでの話を聞いて、創業促進事業、企業誘致、雇用拡大などの事業が大切なのではないかと思われたが、徳島をこれから発展させていくためには新しい事業展開、企画が必要になってくるだろう。そこで、成功している大きな企業に先頭に立ってもらい、もっと積極的に講演などで成功事例を周知していただき、チャレンジしやすい雰囲気形成し、地域を盛り立てていくことが重要だと感じている。
白井委員	今の黒下委員や美馬委員の話を聞いていると、行政にしても企業にしても、他地域の成功事例を知り、みんなが勉強して街を良くしていくという姿勢が大切なのではないかと感じた。
杉原委員	少し話はずれるが、公営ギャンブルがある地域は発展しやすいため、競馬の権利がある徳島市に、ばんえい競馬をすれば成功すると打診していたが、その当時は採用され

	<p>なかった。しかし、徳島市はまだその権利を捨てていないはずなので、これからばんえい競馬を始めるのは難しいだろうが、国が公営ギャンブルをするということにも絡めて、ぜひ公営ギャンブルに関する部署を設けて何か検討してほしい。財源としても大きなものになるのではないだろうか。</p>
事務局	<p>公営ギャンブル、競馬の権利に関しては、状況を確認する。</p>
斎藤委員	<p>女性からの意見もお聞きしたいと思うが、今出委員から何か意見はないか。</p>
今出委員	<p>資料の中小企業振興施策の実施状況を見て、各事業は単年度で見えていくものかと思うが、過去の同じ施策に関しては実績を列記しておく、事業成果の経過が分かっているのではないかと。</p> <p>それから、とくしま女性活躍推進支援事業に関して、平成30年度に前年度予算216万円から100万円に減少しているがなぜか。また、セミナー参加者の就職者数の実績が30年度に落ち込んでいる理由は何か。</p>
事務局	<p>平成29年度の実施状況については、今詳細を確認できないため、後ほど回答を行う。</p>
黒下委員	<p>19ページの経済変動対策貸付金についてお聞きしたい。この資金は元々、経済変動、経営環境や社会環境の変動等による経営の不安定を改善するための資金ということだが、平成30年度に融資件数、融資額が3倍ほどになっている理由としては経済不安が増えてきているということになるのか。</p>
事務局	<p>増加理由については、市から信用保証協会に尋ねたが、その理由は明確には分からないとのことだった。確かに全体的な景気は緩やかな回復基調にあるが、順調なところとそうでないところで二極化しているのかもしれない。また、理由は定かではないが、信用保証協会の感触としても、資金の利用は今後も増加することが想定されている。</p>
黒下委員	<p>理由は信用保証協会に聞かなければわからないのか。</p> <p>また、預託金は何倍協調として、どこに預託しているのか。</p>
事務局	<p>そうである。</p> <p>貸付は預託金の10倍の4億円を枠とし、各金融機関に分散して預託を行っている。</p>
黒下委員	<p>信用保証協会に尋ねても分からないとのことであったが、おそらく経済不安によるものだけではなく、新しく事業をするなど、ネガティブなものばかりでもないのではないかと。資金の運用上、その辺りは分析しておくべきだと思われる。</p>
斎藤委員長	<p>先程の今出委員の質問についての回答はどうか。</p>
事務局	<p>手元の資料で詳細を確認することができないが、予算が減少していることや、実績が悪化していることの原因、理由を再確認し、事業の方向性を定めていきたい。</p>
臼井委員	<p>先程の今出委員のご指摘にもあったが、配布された資料では、事業毎に過去の取組みと現行施策、あるいは今後の方向性について、どういう連続性があるのか確認できない。こうした状況だと、我々が将来の目標に向かって、正しい道筋を走っているのかが見えにくいように思う。だからこそ、ご指摘のような意見が出るのではないかとと思う。総合計画と各年度の施策とが切れているように見えてしまうのは、総合的な長期計画に、「おどる」「つなぐ」「まもる」という抽象的な観念はあっても、そのための具体的な数字がないからではないか。この先の総合計画にはこれまで以上に具体性を持たせていくことが必要になってくるとと思われる。本当に徳島市を良くしていきたいのであれば、それぐらいのしっかりした総合計画づくりが必要だと考える。</p>
事務局	<p>先程も申し上げたように、徳島市には総合的な計画として徳島市まちづくり総合ビジョンが策定されており、その下位組織として策定されている徳島市産業振興ビジョンの理念に基づいて経済の振興に努めているところである。徳島市産業振興ビジョンに</p>

	<p>関しては、現在点検を行う時期となっており来年度には、より具体的な指標を持たせたものとなるよう検討しているところである。</p>
杉原委員	<p>私は、徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議の委員をしていた。その委員会の中で、これから先、中心市街地の懸念として、そごうが撤退する可能性が十分に考えられるが、もし撤退すると駅前商業施設としてどういうものができるのか、第二総合市民病院を作るのはどうか、と意見した際、委員長からの回答は、先のことは分からない、どんな事態が起こるか分からないため、回答できないとのことだった。しかし、それでは全ての都市計画はできない。臼井委員が言うように、長期的な総合ビジョンが明確にできていない。逆に言うと、臨機応変に対応するというスタンスなのかもしれないが、それでは中長期的な部分が見えてこないため、考慮していかなければいけない部分だと考える。</p>
斎藤委員長	<p>2点目の議事についても話し合う必要があるため、1点目の議事についての意見、質問はここで一旦終了とさせていただきます。</p>
<p>(2) 令和元年度中小企業振興施策の実施状況及び令和2年度の方向性について</p>	
斎藤委員長	<p>2点目の「令和元年度中小企業振興施策の実施状況及び令和2年度の方向性」について、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>令和元年度中小企業振興施策の実施状況及び令和2年度の方向性について説明</p>
斎藤委員長	<p>ただいまの事務局の説明について、意見、質問はないか。橋爪委員はどうか。</p>
橋爪委員	<p>資料の中の6番目、とくしま女性活躍推進支援事業についてだが、女性だけでなく、若者の支援も行うのであれば事業名に若者という言葉を入れる方がいいのではないかな。</p>
事務局	<p>ぜひ検討したい。</p>
斎藤委員長	<p>それでは続いて、本庄委員はどうか。</p>
本庄委員	<p>14番の一番予算規模の小さいところの話ではあるが、中小企業振興基本条例啓発事業は、中小企業振興基本条例11条に基づき、児童・生徒の勤労感等の醸成を促進するというので、内容的にも非常に素晴らしいことだと思う。しかし昨年実績では120人程の応募があつて、15人程の対応しかできなかったとあるが、そのとおりのかな。いろいろな中小企業を巡って体験するということは民間企業ではできないことであるため、もっと推進していったほしいと思うがどうか。</p>
事務局	<p>この事業で行っている夏休み企業体験ツアーはかなり人気があるが、市のマイクロバスを利用している関係などで、一度に参加できる人数に制限がある。平成30年度は計2回の実施で121人中27人の参加であったが、要望に答えるべく、平成31年度からは計3回実施、45人の参加となり、参加者は増加している。</p>
斎藤委員長	<p>それでは、山城委員の代理ではあるが、藤岡委員代理から何か意見はないか。</p>
藤岡委員代理	<p>理念やビジョンを策定しているところと、実際に事業を実施しているところが別であることにすごく違和感がある。民間企業などであれば、実際に事業を行ってその中でPDCAサイクルを回していると思うが、市も数字を伴って見ていかなければ正しい計画なのかなど見えにくいのではないかなと思うため、次年度から考慮していただきたい。</p> <p>また、市の実施する各事業の案内をよくもらっているが、その内容がかなり読み込まなければ分からないことが多く、中小企業がそれを見て、自社に必要なものか考えることが難しいため、もっと一目でわかり易く作っていただきたいと思うがどうか。</p>
事務局	<p>この場で説明できていないところがあるため、少し補足させていただきます。先程紹介さ</p>

	<p>せていただいた徳島市まちづくり総合ビジョンは従来の自治法で定められていた総合計画であり、経済部に限らず市全体のビジョンであり、PDCAサイクルがされており、3年を1期としてアクションプランが策定されている。本委員会配布させていただいている資料3にある事業の中には、このビジョンに重点事業として組み込まれているものも複数あり、使用している数値などもリンクさせている。また、産業振興の基本計画として徳島市産業振興ビジョンを平成26年に策定しており、その理念に基づき事業を実施しているところである。</p>
長尾委員	<p>街を活性化させるために、県外の人や、最近では訪日外国人も多いため、そうした人に来てもらえる何かがあればいいかと思う。SNSを見て、県外、海外の人に来てもらえることもあるが、地場産業製品の販促なども工夫していきたい。また、東京や海外での展示会がどうすれば成功するのか教えていただくのもおもしろいと思う。また、人手不足感もある中、最低賃金がどんどん上がってきており、企業側としては苦勞しているのが現状である。徳島以上に最低賃金が高い地域の取引相手が単価を上げているということもある。そのため、最低賃金の上昇に対して何か策はないかと思っており、高齢者に対して特別な労働体系を設けるなどのことができないかと考えている。</p>
斎藤委員長	<p>その他何か意見、質問はないか。</p>
杉原委員	<p>東京オリンピック開催が近づいているが、ジャパンプルーで検索しても徳島の藍が出てこず、岡山や鳥取が出てくる。これは、徳島の観光力が弱く、PRが上手くできていないからではないか。藍染めの専門店は、藍住や国府までいかなければいけないため、駅前に専門店が必要だと思う。</p> <p>また、鳩の糞害対策をしてほしい。商店街が汚れて客に来て貰えなくなり、衛生的にも悪い。</p>
臼井委員	<p>徳島市の中小企業振興施策を考えるに当たって、一番知っておかなければいけないことは何か。徳島市内にある中小企業の実態をしっかりと抑えることではないか。それは今出来ているのだろうか。上がっているのかも下がっているのかも見えてないのではないか。先ほど話題に上ったが、県の制度融資絡みで利子補給を行っているなどの話が出たが、それは正に景気が悪くなっているとしか考えられない。私が推測するに、おそらく人件費が上がってきて、売上が下がり、資金繰りが悪くなって、利益が出ない、キャッシュフローが読めない、だから補給をしなければいけない。それを実は知っておく必要があるのではないか。お金を出している以上は情報を取れると思う。保証協会に聞けば、県、市がお金を出しているのだから、お金を出しているからには実態がどんなことになっているのか知っておかないと施策も打てない気がする。ということは、私は、一生懸命中小企業の対策を考えても実態を知らずにしているということにものすごく不安を感じるが、本気度が足りないのではないか。失礼な言い方かもしれないけれども、もっと真剣味をもって中小企業の実態を把握するということは必要ではないか、という気になった。以上である。</p>
事務局	<p>貴重な厳しい意見として受け止めさせていただく。</p> <p>杉原委員より藍などのPRができていないとの意見があったが、現在、アミコビルの中に新産業振興施設を新設する計画が進んでおり、1階のスペースにて地場産業の振興に取り組んでいきたいと考えている。また、9階のスペースでは起業や販路拡大、事業承継など、中小企業への支援のために活用できれば、と考えており、ぜひとも今後ともご協力をお願いしたい。</p>
斎藤委員長	<p>その他に意見、質問はないか。</p>

	<p>今日の話し合いの中で様々な意見をいただいたが、阿波踊りの話題が一度も挙がってこなかった。しかし私は、このキラーコンテンツから逃げずに向き合い、活かしていかなければいけないと考えているため、阿波踊りを絡めた施策をぜひ検討していただきたいと思う。</p> <p>事務局の方には、委員の意見をしっかりと受け止め、十分に参考にして施策に反映して欲しい。</p> <p>以上をもって、令和元年度第1回徳島市中小企業振興対策委員会を終了する。</p>
5 閉会	－ 16時00分 －